

## 西肥前武雄旧家に残る江戸寛政期資料

原 口 善一郎

〔抄 録〕

本稿において、佐賀県武雄市に保存されている江戸寛政期の資料を中心に紹介する。この資料は、旅日記の形式による雑記帳（寛政七年）、薬の資料（天保九年）など多様である。今回、廃棄を免れ現存する資料の全てにおける資料撮影許可をいただいた。撮影できた分の内、寛政期の生きた歴史資料としての部分と薬の材料の部分を中心に資料を公開するものである。

**キーワード** 「佐賀県武雄市」、「近松門左衛門」、「杉森家」、「江戸・寛政期」、「長崎街道」

本稿において、佐賀県武雄市に保存されている江戸寛政期の資料を中心に紹介する。この資料は、旅日記の形式による雑記帳（寛政七年）、薬の資料（天保九年）など多様である。今回、廃棄を免れ現存する資料の全てにおける資料撮影許可をいただいた。撮影できた分の内、寛政期の生きた歴史資料としての部分と薬の材料の部分を中心に資料を公開するものである。

今回撮影させていただいた資料は、以下のとおりである。

1. 客中見聞録 寛政七年卯年 縦24.4cm 横17.9cm 厚さ1.5cm  
表紙和紙1枚 表題付 裏表紙和紙1枚  
内装和紙90枚二つ折り—180頁相当  
紙紐綴じ（内装部分）  
**資料 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7**
2. 錦囊智術全書 完 天保九年 縦18.2cm 横16.5cm 厚さ1.5cm  
表紙装丁無し  
和紙57枚二つ折り—112頁相当 紙紐綴じ  
二つ折り表面に書名記載  
表紙二つ折り裏面から用紙最終部まで記述  
裏表紙に当たる部分には記述無し  
**資料 8, 9, 10, 11**

3. 書名 記載無し 縦 27.4 cm 横 18.5 cm  
表紙 1 枚 裏表紙 1 枚  
内装和紙 24 枚—48 頁  
表紙の綴じる部分に「怡土」と判別可能な個所あり  
**資料12, 13, 14, 15**
4. 見分雑記 後篇 文化年間 縦 26.5 cm 横 18.5 cm 厚さ 1.4 cm  
表紙 1 枚 裏表紙 1 枚 中 54 枚—108 頁相当  
裏表紙に 杉森主持 の記入あり

資料

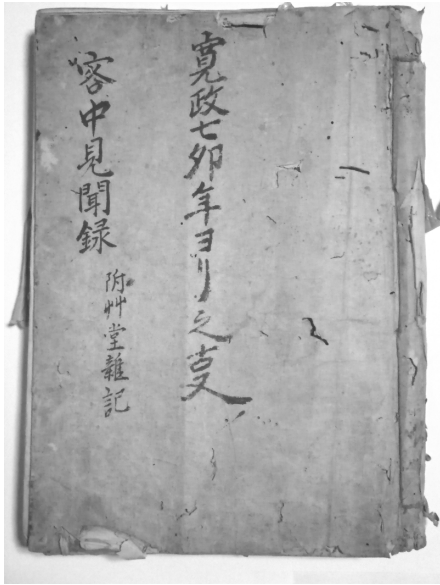
1. 客中見聞録 表紙
2. 天子に関する記述
3. 日本・中華に関する記述
4. 長崎唐通事に関する記述
5. 和訓解釈・神代文字について
6. 宮殿案内図
7. 宮殿内部記述
8. 錦囊智術全書 完 表紙
9. 医術・手当
10. 丸薬についての諸方
11. 薬湯・散薬についての諸方
12. 書名 記載無しの一冊中 — 禅語についての記述
13. 書名 記載無しの一冊中 — 長崎についての記述
14. 瘡についての記述
15. ロシアについての記述

（資料撮影データ全て F4.5 1/60秒 オート デジタルカメラ）

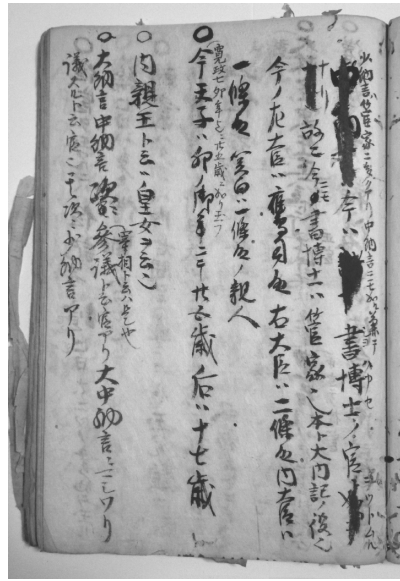
本稿で紹介する文書は、肥前の国西部（現佐賀県武雄市）の旧家杉森家に残されている資料である。杉森家の祖先は水戸を出自とし、江戸、京を経て長崎に向かう途中で今の地に医師として定住したということである。杉森家は、江戸期以来の医者の家としてあり続けた。また、第二次世界大戦後の薬事法改正まで丸薬等の製造をしてきた。その家系に連なる人たちは医事にかかわり、佐世保市で医師をしておられる。さらに伝わる所に拠ると、先祖は近松門左衛門と家系がつながっており、いところ同士であったという。近松の作品のうち一つは西肥前黒髪山（現武雄市・同じ西肥前の佐世保では同山を「くろかんざん」と発音）に因むもので、当地で書かれたものという。（以上は、杉森家家人の方による伝承を聞き書きし編集したものである。）

近松門左衛門とも関係があるといわれる杉森家に残る文書は、寛政年間の旅日記という生きた歴史資料として、また薬学上の資料としての価値を見出すことができると考えられる。

1. 客中見聞録 表紙



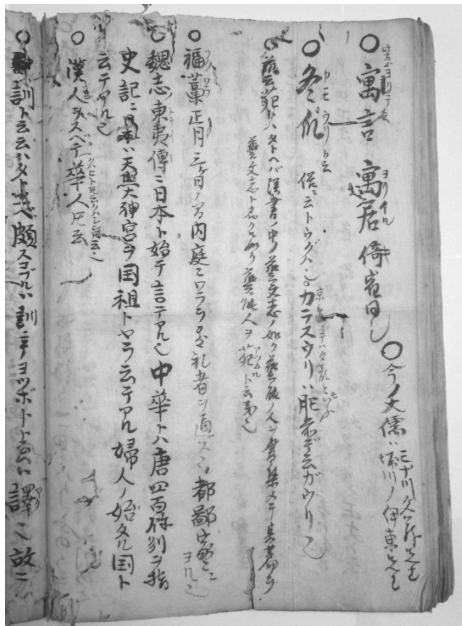
2. 天子に関する記述



天子に関する記述

- 今天子ハ卯ノ御年ニテ廿七歳后ハ十七歳
- 内親王ト云ハ皇女ヲ云

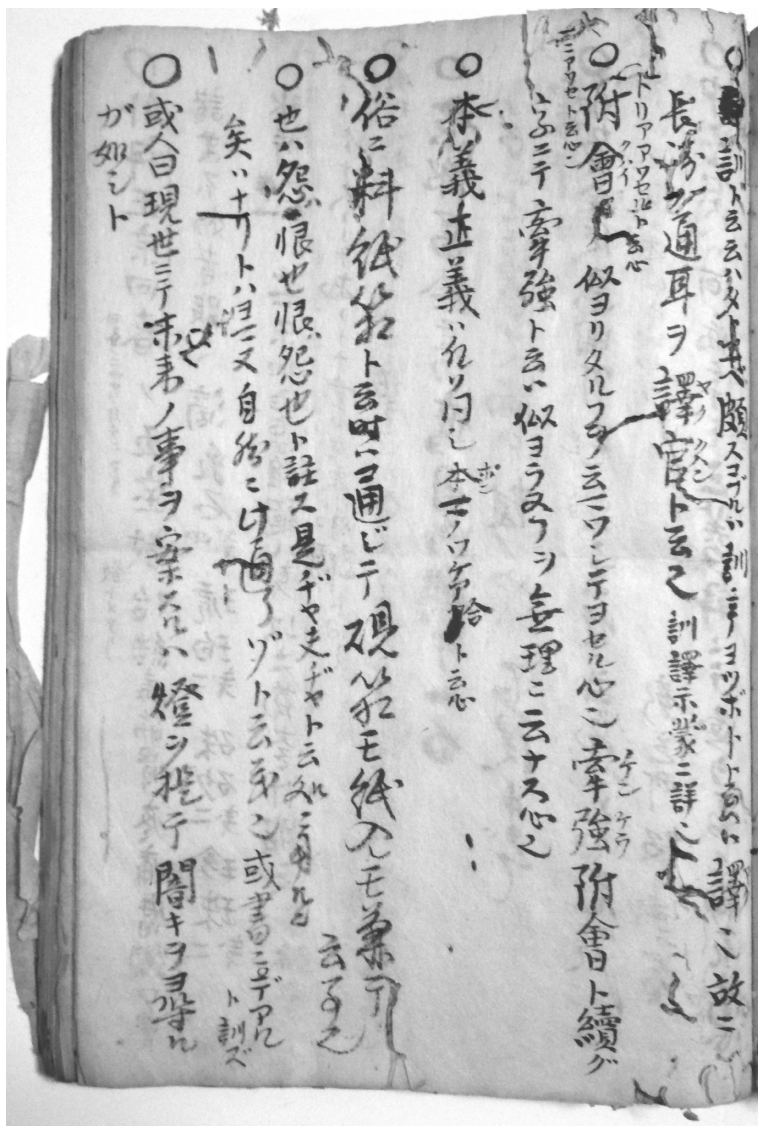
3. 日本・中華に関する記述



- 魏志ノ東夷傳ニ日本ト始テ言テアル  
中華トハ唐四百府列ヲ指ス  
史記ニ日本ハ天照大神宮ヲ  
国祖トヤラ云テアル婦人始タル国ト云テアル  
・著者の心の内を感じられる表現である。

- 漢人ヲスヘテ華人トモ云

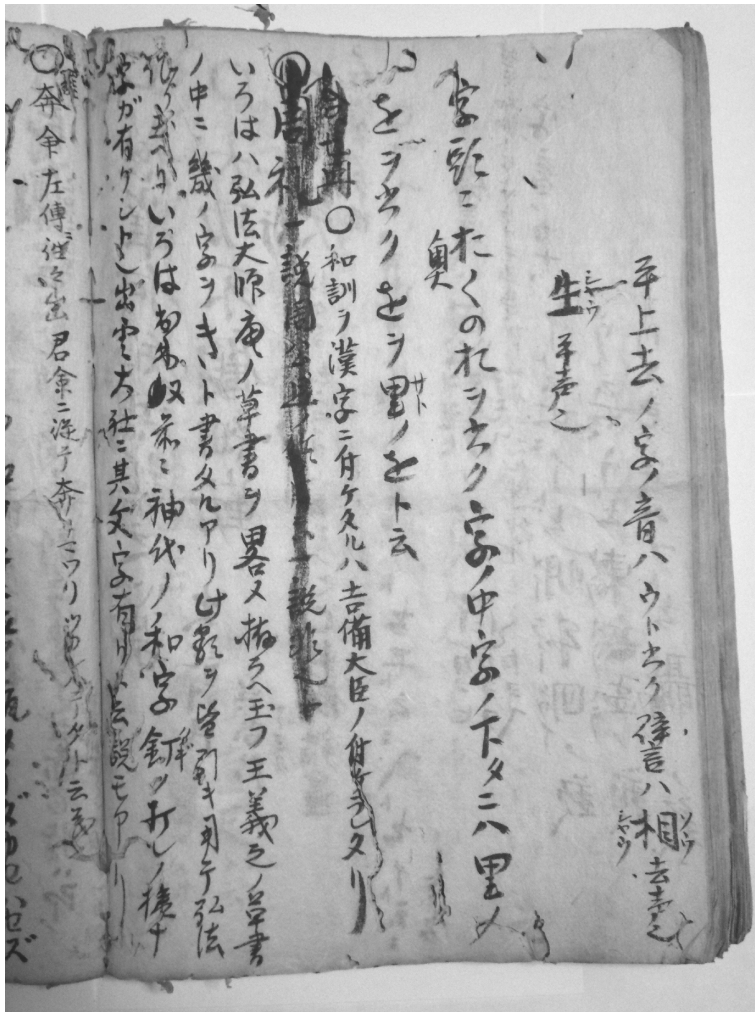
4. 長崎唐通事に関する記述



○長崎通耳ヲ  
 ヤクハン  
 譯官ト云  
 訓譯示蒙ニ詳

杉森家資料の記述には、『魏志東夷伝』を根拠に日本を論述する箇所がある。ここで、鍵になることばは、『魏志東夷伝』、「日本」、「中華」、「史記」、「天照大神」、「漢人」、「華人」という部分である。その後、「訓」ということばが現れて「長崎通耳ヲ譯官ト云」の記載が現れる。「つうじ」と呼ばれる人々の漢字表記は「通事・通詞・通辞」であるがここでは「通耳」と記述されている。江戸幕府公式の「つうじ」の表記は「通事・通詞」である。本資料には公式の字の用法は用いられていない。

5. 和訓解釈・神代文字について



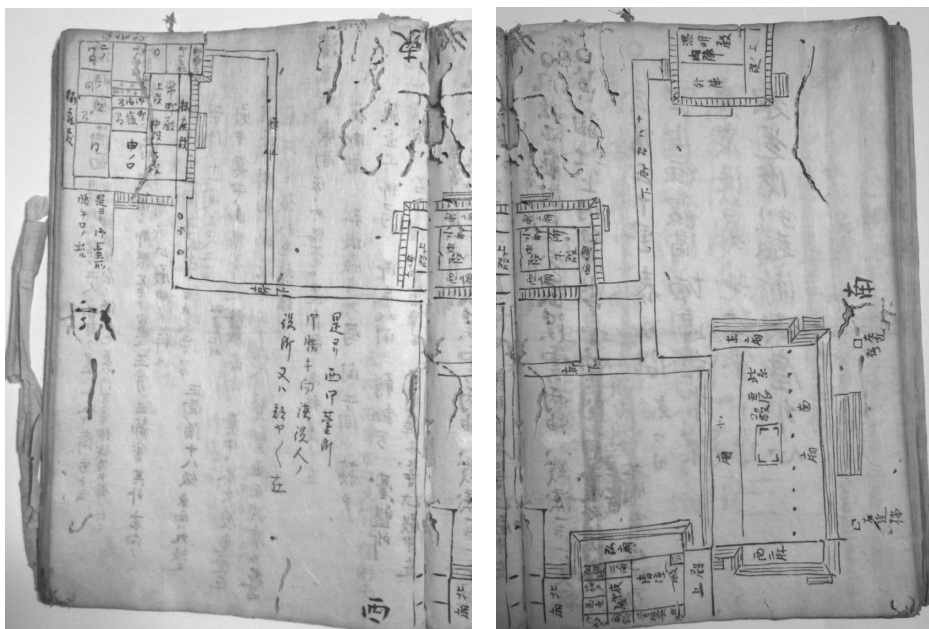
いろはハ弘法大師ノ草書ヲ略メ

拵ラヘ玉フ 王義之(原文ママ)草書ノ中ニ幾ノ字ヲ き ト書タルアリ (中略)

神代の和字釘ヲ打レノ様ナ字ガ有ケシト

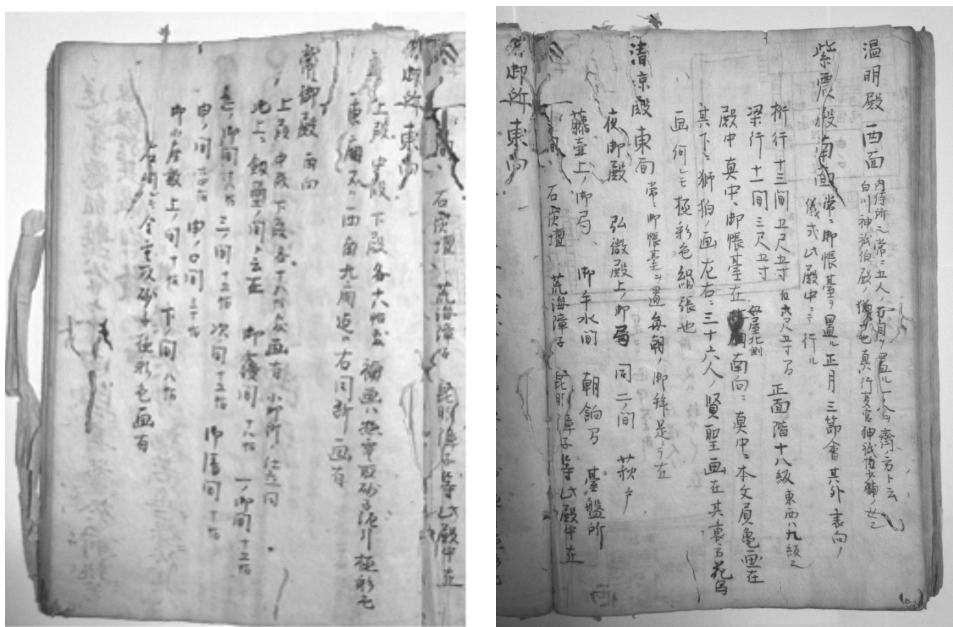
出雲大社ニ其文字有リト云説モアリ

6. 宮殿案内図



御所（禁中）と思われる配置図

7. 宮殿内部記述



常御殿 南向

御所 東向

清涼殿 東面

紫宸殿 南面

温明殿 西面

8. 錦囊智術全書 完 表紙



錦囊智術全書 完 天保九年  
 縦18.2cm 横16.5cm  
 厚さ1.5cm  
 表紙装丁無し  
 和紙57枚二つ折りー112頁相当  
 紙紐綴じ  
 和紙二つ折り表面に書名記載、表紙に当たる紙の裏面から用紙最終部まで記述。  
 裏表紙に当たる部分には記述無し

9. 医術・手当



切瘡即座ノ血止

- 一 茶の葉をかみて付る妙

白癩ノ妙方

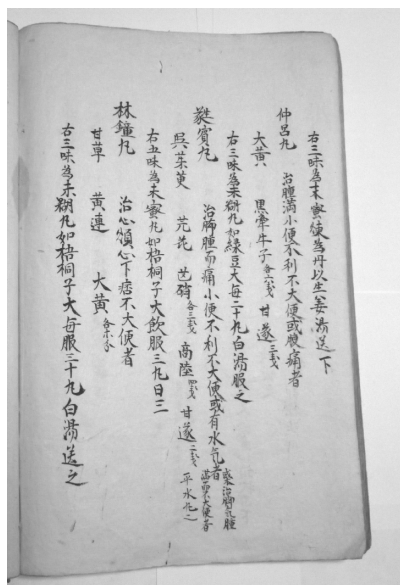
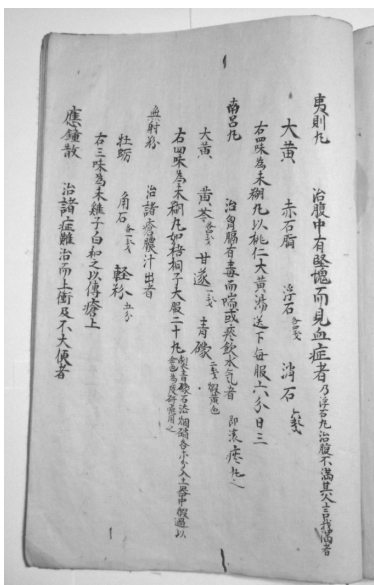
- 一 硫黄ヲ生姜ノ汁ニ浸シ癩ノ上ヲスルベシ即チ癒ユ

癩風ノ妙方

- 一 茗荷キザミテ明礬硫黄少シ  
 丹叶四色布キルニ包シスルヘシ癒ユ  
 右秘方百三十七

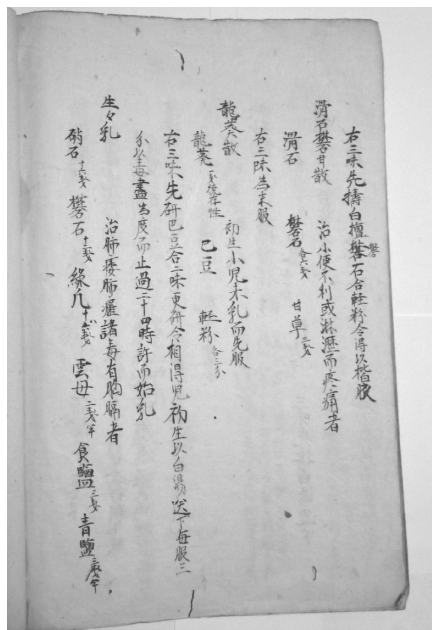
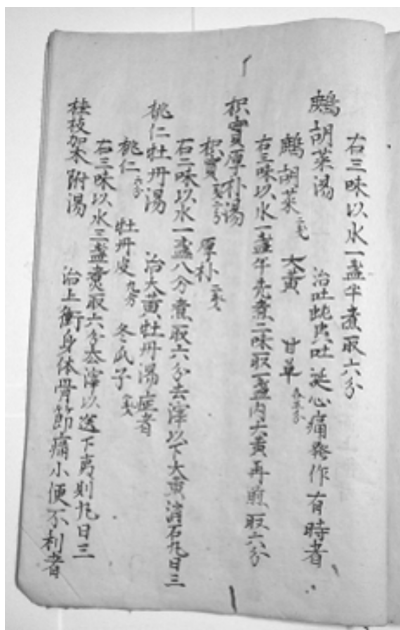
以上のように具体的な症状と手当の方法が記述されている

10. 丸薬についての諸方



丸薬名とその用法及びその諸方が記述されている。  
 仲呂丸  
 林鐘丸  
 夷則丸  
 南呂丸  
 と記述されている。

11. 薬湯 (左)・散薬 (右) についての諸方

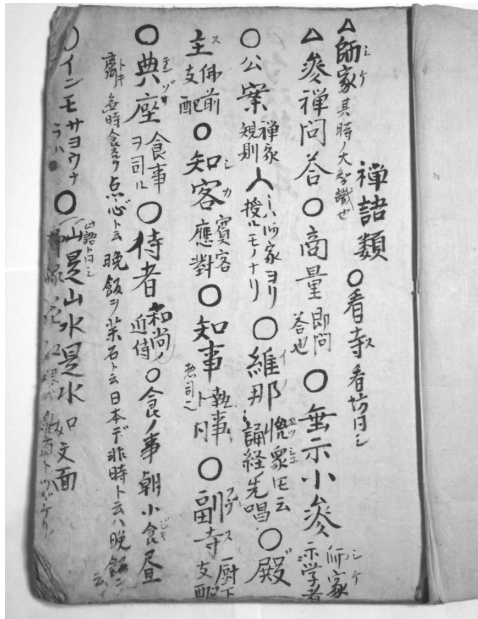


桂枝加木附湯      桃仁牡丹湯      龍葵散      滑石礞石散

具体的な症状とそれに対する薬の材料の調合が記されている。

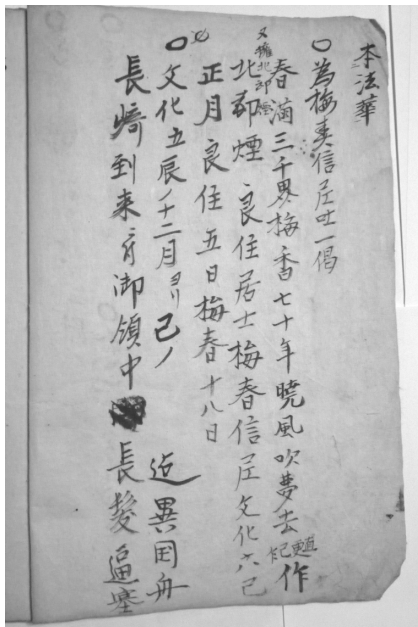


12. 書名 記載無しの一冊中 — 禅語についての記述



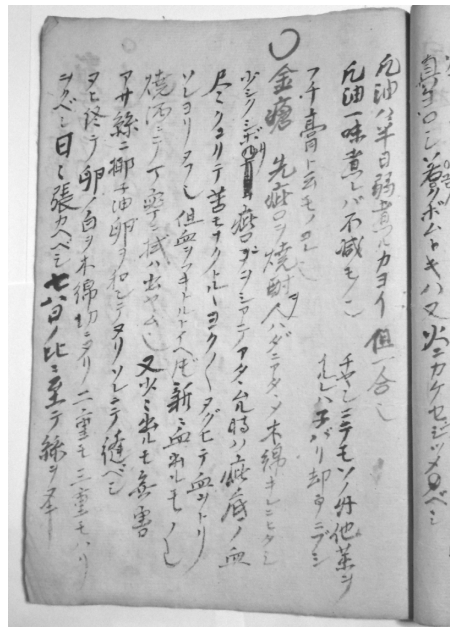
△師家 (シケ) △看寺 (カンス)  
 △参禅問答  
 ○商量 即問答也  
 ○無示小参  
 ○公案  
 ○維那 (イノ) ○殿 ○主 (ス)  
 ○知客 (シカ) ○知事 ○副寺 (フウス)  
 ○典座 (テンゾ) ○侍者  
 トキ無時食スルヲ点心と云  
 晩飯ヲ菜石ト云日本デ非時ト云ハ晩飯ヲ云  
 ○インモ サヨウナラハ  
 禅用語の読み方が記述されている。現代漢語音に近い表記である。

13. 書名 記載無しの一冊中  
 — 長崎についての記述



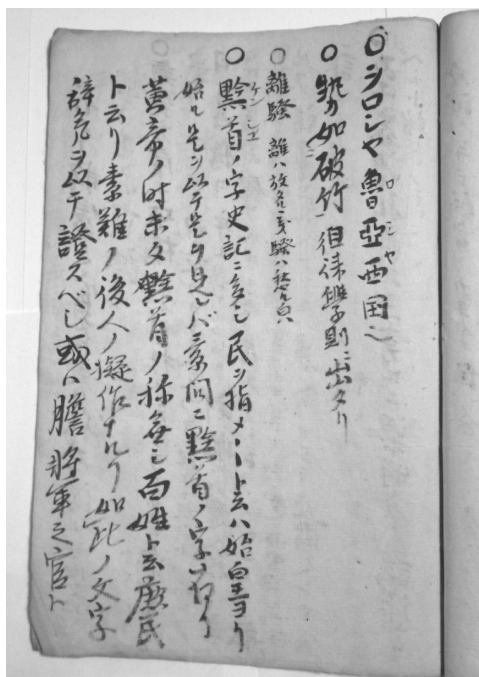
○文化五辰ノ十二月ヨリ己ノ迄異国舟  
 長崎到来 御領中 長髪逼塞

14. 瘡についての記述



○金瘡 先瘡口ヲ焼耐人ハダニアタタメ木綿  
 キレニヒタシ少シク絞り瘡口ヲシア  
 テアタ、ムル

15. ロシアについての記述



- ヲロシア <sup>ロシヤ</sup>魯亜西（ロシヤ—原文ママ）国
- 勢如破竹 徂徠學則ニ出タリ

この資料の著者は、杉森家に伝わるところによると、京へ医術関連の勉強の為に上ったという。資料の御所と関わっているものと思われる図では、設計の情報がまとめられている。当時知ることのできた情報の詳細な記述は、寛政期に記録された情報として解析するに値するであろう。寛政年間には日本の文化の華やいだ頃であると同時に、改革で引き締められた時である。また、日本周辺に外国勢力が及び始め、幕府が国外事情に注意し始めた時期でもある。文化年間の本資料の記述には「異国舟」「ヲロシア」という外国に関する記述が見える。長崎に近い武雄の地にいることが、国外情報に対しての感覚を磨いたことも考えられる。

今回公開させていただいた西肥前武雄杉森家資料は、寛政年間の旅日記と薬関連の資料と文化年間の資料である。当時の人の考えや情報が理解できるとともに、当時の薬の配合とそれに必要とされる材料が明確である。武雄は、長崎から小倉に至る長崎街道の途中に位置する。本資料に記述された薬作りに用いられた材料を、長崎からの物流という観点から読み解くと資料の価値がさらに高まることが考えられる。

（はらぐち ぜんいちろう 文学研究科東洋史学専攻修士課程修了）

（指導：宮澤 知之 教授）

2011年9月30日受理